

生物多様性と少数民族



チョン族の子どもたち。チョン語を学びながら、地域の豊かさを知る。

(少数民族が)地球上で最も生物の多様ないくつかの地域の保護管理者となっている。

——潘基文 国連事務総長(2009年8月9日)

生物の多様性が保たれている地域と、少数民族の居住する場所が重なりあっていることが、たびたび指摘されています。これは、少数民族が地域の自然資源を持続可能な方法で活用しながら生活を営みつつ、生物多様性の保全に貢献しているからだと考えられます。少数民族は、独自の文化・伝統・アイデンティティーを保持することで、生物多様性の保護管理者であり続けることができます。文化の多様性を保全することが、生物多様性の保全にとって重要な意味をもってきます。

タイ東部チャンタブリ県のクロンプルー村に住む少数民族チョン族(県内推定人口数千人)は、森林や薬草をはじめとする自然資源についての伝統的な知恵を、民族のことばであるチョン語を使って記録し、地元小学校の授業の一環として、子どもたちにチョン語・チョン文化や地域の豊かさを継承するなど、文化多様性保全活動と一体化した生物多様性保全活動を実践しています。

メコン・ウォッチは、タイ・マヒドン大学アジア言語文化研究所の協力を得ながら、チョン族の活動を紹介するブックレットの作成などを通して、チョン族の活動を支援しています。詳しくは、メコン・ウォッチのホームページ、「少数民族による文化・生物多様性保全活動への支援事業」をご覧ください。

http://www.mekongwatch.org/activity/conserves_thai.html



伝統的な知恵を記録し展示する「チョン民族博物館」



特定非営利活動法人

メコン・ウォッチ

メコン・ウォッチは、メコン河流域の人びとが開発によって被害を受けることなく、河川や森林など豊かな自然資源に根ざした暮らしを続けられるように、調査・監視活動を行っている NGO です。

所在地: 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 2F

電話: 03-3832-5034、ファクス: 03-3832-5039、電子メール: info@mekongwatch.org

ホームページ: <http://www.mekongwatch.org/>

「少数民族による文化・生物多様性保全活動への支援事業」は、日本興亜思いやりプログラムおよび(財)イオン環境財団の助成を受けています。

(作成 2010年9月20日)